令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『里山の恵みを次世代へ
　自然の恩恵から生まれる
　　森林健康サービス産業の構築』

活動団体の活動地域：広島市・安芸太田町
活動団体名：特定非営利活動法人
　　広島横川スポーツ・カルチャークラブ
中間支援主体名：一般社団法人地域商社あきおおた

参加団体の基本情報

（１）活動団体の基本情報

団体名	特定非営利活動法人 広島横川スポーツ・カルチャークラブ
活動地域	広島市・安芸太田町

専門性・強み

指定管理者として施設管理運営のノウハウ
行政及び地域内関係者との繋がりを活かしたハブ的な活動
交通結節点としての様々な人が行き交うエリア（広島市西区横川）
でのネットワーク

団体概要

- 広島市内及び中山間地域の発展に寄与することを目的として、地域住民や国内外旅行者などに対して文化、芸術、農林水産各産業、教育など各種体験を含んだ取り組みや、その支援および施設運営に関する交流事業などを実施
- 安芸太田町では平成２７年度から宿泊施設を併設した貸し農園を指定管理者として業務運営し、平成３０年度からはキャンプ場を含む自然公園の管理も受託
- 広島市横川エリアでは街を仮想空間に表現して交流する横川メタバースプロジェクト「体験イベント」や「横川まちの芸術祭」とのコラボイベント、ＡＲ体験の「横川ゾンビナイト」や「横川かよこバス祭り」を実施

（２）中間支援主体の基本情報

団体名	一般社団法人地域商社あきおおた
活動地域	広島県山県郡安芸太田町

専門性・強み

自治体（安芸太田町役場）との連携
観光地域づくり法人（DMO）
広島県知事登録　旅行業務手配業
安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会　事務局
安芸太田町田舎体験推進協議会　事務局（教育旅行）
太田川産直市　事務局

団体概要

- 安芸太田町及び周辺地域の産業の活発化による地域振興の推進を目的として平成３０年１月に設立、代表理事は安芸太田町長
- 令和３年１１月に観光庁の観光地域づくり法人（ＤＭＯ）に認定登録
- 道の駅「来夢とごうち」の指定管理者として売店、ＥＣサイト事業を展開し、特産品を活用した商品開発と販路開拓を実施
- 安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会、安芸太田町田舎体験推進協議会の事務局運営を通して、森林セラピーや教育旅行における民泊体験、ダム湖を活用したウォーターアクティビティ等を推進

活動団体と地域の紹介

地域の紹介

- 安芸太田町は広島県の北西部、母なる川「太田川」の源流域に位置し、平成１６年１０月１日に加計町、戸河内町、筒賀村の２町１村が合併して誕生
- 町面積のうち約９割を森林が占め、県内で最も人口の少ない自治体
- 地域内は標高差があり、山・川・湖と四季折々に多様な地域資源が存在
- 国の特別名勝三段峡、県内最高峰の恐羅漢山などを含む各スポットにおける森林浴効果が科学的に実証された「森林セラピー基地」に広島県で初めて認定されており、その他自然や伝統文化を活かした体験プログラムなども充実
- 百万都市の広島市中心部からも高速道を利用すれば約６０分、都会の喧騒を離れゆったりと自然と触れ合い、心身のリフレッシュをしたい人に最適なスポット

活動団体の紹介

- 安芸太田町との様々な繋がり、及びご縁のなかで昨年度よりこの環境省の支援事業に採択していただき、地域のハブ的な役割を担う
- 都市と地方、双方向との繋がりを活かした情報交換・情報共有をこれまで以上に行っていけるよう、日々奮闘中

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域の内・外や年齢・性別・国籍を問わず、誰もが参加できる「場」が提供され、
そこから次々と新しいプロジェクトが生まれ続け、地域経済の活性化、地域社会の発展および美しい自然環境が永続する状態

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

安芸太田町内で観光に関わる事業者・団体・個人および教育関係者、ならびに町外の企業・団体・教育関係者と、課題に応じた様々な意見が生まれる「場」を創り、魅力的なコンテンツを創出する

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 森林セラピーロード周遊型観光事業
- ヘルスツーリズム循環・体験プログラム事業
- 里山ガイド育成事業

■地域の現状と課題

- 広島市街地のデルタ地帯を構成する太田川の源流が流れ、国の特別名勝「三段峡」やパウダースノーが楽しめる恐羅漢山等自然豊かな里山である
- 人口減少（*2005*年*3*月末時点で*8693*人→*2026*年*3*月末時点で*5150*人
- このまちを良くしたいという思いを持った人がつながる意見交換や 情報共有の「場」が創出され、コミュニケーションがより図られ地域の理解も深まり、関連するステークホルダー同士の信頼関係も構築できるようになった
- 今後も継続すること、ならびに活性化を図り、次々とプロジェクトを創出することが必要

（参考）ローカルSDGｓ事業の紹介

安芸太田ウェルネスプロジェクト

【概要】
安芸太田町の棚田・森林・古民家宿と、町営総合病院の医療機能を組み合わせた、健康経営企業等に向けた新しいプログラム。人間ドックによる医学的チェックと、里山でのデトックス体験・森林セラピー・地元食材による健康食を組み合わせ、従業員のメンタルヘルス・生活習慣改善・リフレッシュを総合的に支援することで、新しい健康の循環と安芸太田町への共感者を生み出していく。

【段階】計画・構想／試行
【実施時期】2026年度内

【活用している自然資本・地域資源】
公立病院・古民家宿、棚田、農作物、山、水、地域で暮らしている人、四季（春夏秋冬）、森林セラピー

【事業により生じたor 生じそうな成果】
宿泊 → 地域住民の関わりと食材の消費 → 地域経済の循環
体験 → 地域の魅力発見→ 関係人口の増加
医療 → 地域医療機関の新たな役割創出 → 地域医療インフラの持続
企業 → 従業員の健康改善（ストレス軽減・生活習慣改善）→ 健康経営の質向上
地域資源の活用 →地域資源の価値向上 → 保全活動の活性化

今後の展望
・2026年度はモニター受入を実施することで内容のブラッシュアップを図り、2027年度からの販売＝自走を目指す。
・現状は筒賀エリアで想定しているが、町内の他エリア（加計・戸河内）での受入れ体制が整い次第横展開を図る。

ひろしま流域フォーラム

【概要】
1年目は流域の関係者との対話と場づくりに取り組み、2年目は井仁の棚田再生・筒賀ウェルネスツーリズムなど事業の種を確立。3年目となる令和8年度は、瀬戸内海の牡蠣大量死が示す海と山のつながりの危機を受け、安芸太田（森・川）と江田島（海・牡蠣）をつなぐ「流域の循環」を広く社会に問いかけるアウターブランディングの年として、10月に流域フォーラムを開催し、山・川・海を共に考える場を地域内外へ発信する。

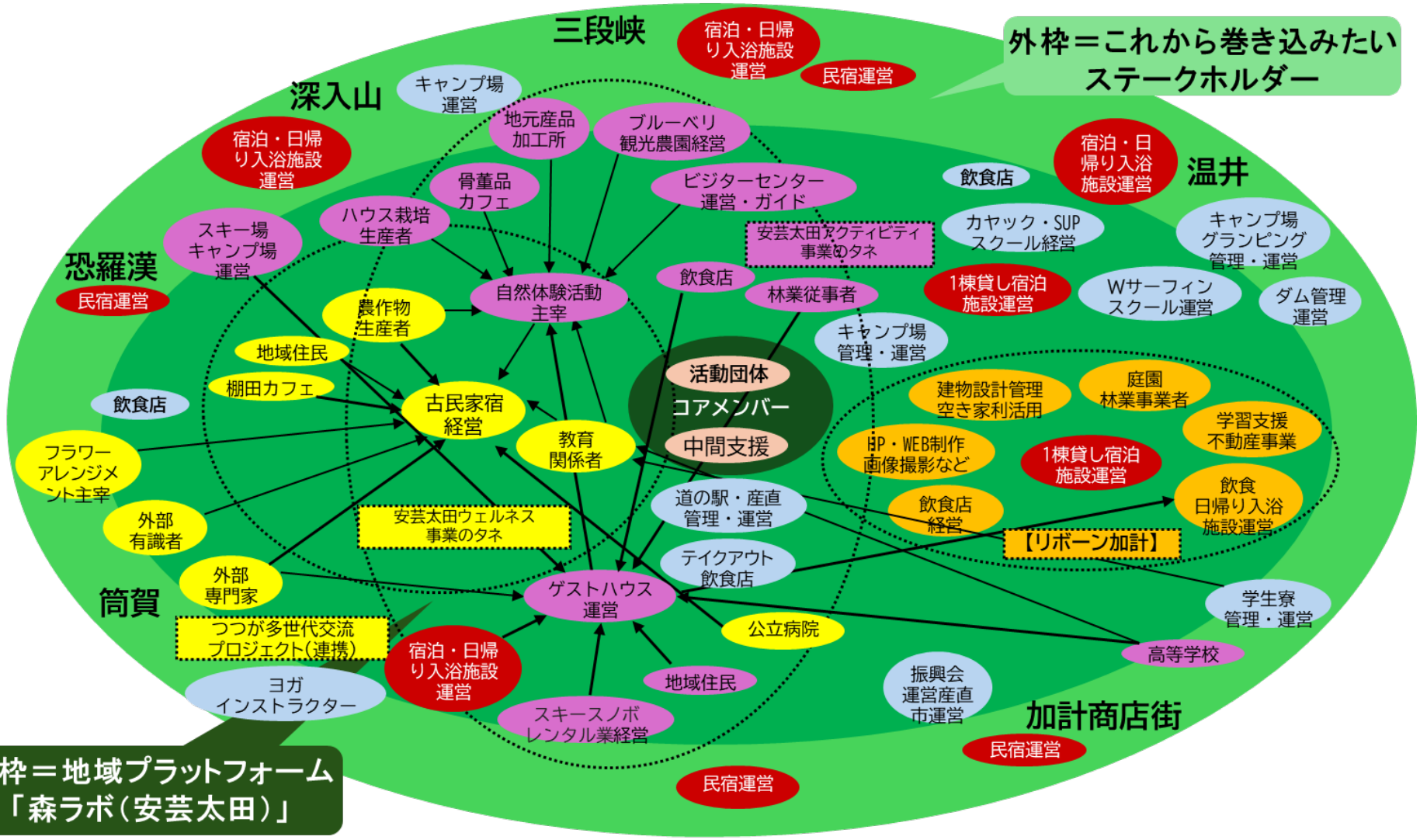
【段階】実施・開催
【実施時期】2026年10月（予定）

【活用している自然資本・地域資源】
太田川水系（源流・森林・棚田）、瀬戸内海・江田島の牡蠣・海藻、水産業従事者、林業従事者、地域住民・関係人口

【事業により生じたor 生じそうな成果】
森林 → 水質保全 → 牡蠣の生育環境の維持・改善
フォーラム開催 → 流域全体の関係人口・共感者の増加
流域循環の可視化 → 環境省事業の成果発信・政策提言

今後の展望
フォーラムを起点に流域連携の仕組みを、広島版OSSU（https://www.ossu-pj.com/）事業へと継続発展させ、太田川流域全体での地域循環共生圏モデルを広島県内外へ普及させる。

（参考）現状の地域プラットフォーム



（参考）現時点のマンダラ

安芸太田町版　マンダラ

自然の恩恵を実感し続けるまち

	暮らしと子育て	自然と文化	場と関係	人と仕事
ありたい姿	高齢者から若者まで多世代が支え合う、暮らし続けられるまちが実現する	自然資源・文化資源が次世代に継承され、暮らしと観光が共存する地域として確立する	地域のコミュニティが再構築され、人の交流そのものがまちの魅力として定着する	まちのなりわいが継承・再生し、多世代が関われる働き方が地域に根づいていく
成果	子ども・若者・子育て世帯・外部人材の参画が増加	自然･文化･歴史などの価値が発信されている	世代を超えた交流が徐々に生まれつつある	定期的に活動する新しい担い手が生まれてきている
取り組み	森のようちえん（幼児期から外遊びなどの習慣化） 子育てや福祉関連など相談の場づくり	棚田保全（草刈り・石垣整備など 山・川・湖・森林などを活用した自然体験活動	地域行事・マルシェ・季節イベントの開催 多世代が定期的に集い対話を重ねることのできる場づくり	地域産品の加工及び商品開発 定期的な養成講座実施による里山ガイドの育成
地域資源	地域を知り尽くしている方々の知恵や経験 身近に外遊びが出来る環境	三段峡や恐羅漢などの四季を感じることのできる名勝地 地域それぞれにおける伝統行事や伝統文化	地域に根付いているネットワーク 空き家など現状活用されていない各施設	地域住民の経験を活かした技術 中高生や若者等の時代に適応したアイデア
地域課題	外遊びなど出来る環境を十分に活かしきれていない 移住希望者等に即時対応することができる住宅 様々な世代における移動手段の確保	棚田などの景観・伝統文化の継承などが困難 関係人口の創出に繋がる仕組みづくりが弱い 地域資源の価値というものを認識されていない	コミュニティの再構築が必要 世代を超えた関係性が希薄になってきている 人々が集い交流できる拠点が限られている	なりわい・働く場の減少 地域のおける仕事や役割が見えづらい 若者の挑戦する機会の不足

３カ年状態目標

■2027年度末の状態目標

・地域プラットフォーム　「森ラボ安芸太田」が自立的継続的に開催される。

・持続可能な周遊型体験プログラム（安芸太田ウェルネスプロジェクト）が本格運用され、都市部の人々が安芸太田の自然に癒され価値を認識するとともに、地域社会の核である安芸太田病院の運営の一助となる。

・広島版OSSU（https://www.ossu-pj.com/）事業の創出に向けたプロジェクトが始動している。

■2026年度末の状態目標

・地域プラットフォーム　「森ラボ安芸太田」が継続的に開催され、自立的な運営に向けた準備が整う。

・持続可能な周遊型体験プログラム（安芸太田ウェルネスプロジェクト）が確立し、自立的な運営に向けた準備が整う。

・ひろしま流域フォーラム開催を契機として広島版OSSU（https://www.ossu-pj.com/）事業のタネが生まれる。

■2025年度末の成果と振り返り

・ステークホルダー同士のコミュニケーション（町内外を含めた）の場である地域プラットフォーム「森ラボ安芸太田」が継続的に開催され、そのプラットフォームの場から既存のプロジェクトの更なるブラッシュアップ及び新たなプロジェクトの創出に繋げていくという状態目標はいずれも達成できた。

・また、毎回新たな参加者が加わることで新しい繋がりが生まれていることを実感できいる。

・地域プラットフォームの継続実施は行えているが、各回のテーマを毎回スムーズに決め切れない部分が課題である。

・事業創出については、初年度から地域の方々の理解を得ている「井仁の棚田」地区において、具体的なプログラム造成を行った。

・2026年度にはトライアルを実施し、2027年度に自走できるようしっかりと詰めていく。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低３つ記載ください。)

	優先するアクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと（ヒト/モノ/カネ/仕組み/機能等々）
①	体制を整える	令和８年度末	・次年度以降の自立的な運営に向けて、主体的なステークホルダーと活動拠点となり得る場の発掘のための地域プラットフォーム「森ラボ」の実施 ・進捗状況の可視化による効率化	・メンバー間の更なる情報共有 ・地域住民との今まで以上のコミュニケーション及び情報収集 ・次年度以降を見据え、活動に賛同してくれる人材と場
②	事業を生み出す	令和８年度末	・小規模トライアルの実施 ・継続的な情報発信とトライアルへの参画事業者の発掘 ・トライアル結果を活用した事業のブラッシュアップ ・ウェルネスプログラムの最終調整から販売準備	・地域資源の編集力 ・関係各事業者との調整力 ・地方の現状、ならびにウェルネスプロジェクトへの理解や知見がある専門家 ・事業立ち上げ資金
③	事業主体を探す	令和８年度末	・既存事業者の更なる深堀り ・地域内外の関係人口の活用 ・地域通貨を活かした連携事業 ・事業推進のためのチームづくり ・定期的な勉強会の実施	・実行力のあるプレイヤー発掘 ・地域通貨をフックとした地域内経済循環の仕組み ・ジャンルに拘るのではなく多様な方々を巻き込める力 ・世代間の連携

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■中間支援主体の1年間の支援目標

ローカルSDGs事業の創出に注力するため、具体的な活動を計画どおり実施できるようスピード感を持って支援に取り組む。
特に出口戦略が重要となるため、利用者のニーズ把握やマネタイズ、具体的なセールス・プロモーション手法などを支援したい。
地域プラットフォームの構築と密接に関係するであろうフォーラムの開催は、地域内外に向けたブランディング戦略の一環として、可能な限り資源連結を支援していく。

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題（見立て）	課題を解決するために必要と考える手段（打ち手）
①	本事業終了後に地域プラットフォームを持続可能なものにするためにはどのようにするべきかが定まっていない。	地域プラットフォームのあり方や運営主体を整理の上、どのようなステークホルダーと連携するべきか、また、どのように声掛けしていくかを考えてもらえるようにする。
②	本事業終了後を見据えて、これまでに繋がったステークホルダーや、まだ巻き込めていない地域の関係者に対して、活動団体が描いているビジョンの明確化が必要である。	活動団体が描くビジョンについて、なぜそうありたいのか、どういうことを意味しているか、など問いかけることで、ビジョンを言語化できるようにし、かつ巻き込みたいステークホルダーにも分かりやすくする。
③	ローカルＳＤＧｓ事業を創出するために具体的にどのように動けばよいのか、積極的に行動する必要がある。	ローカルＳＤＧｓ事業創出に向けた伴走支援の在り方をOJTの形で実施することで、活動団体自体が事業創出できるようにする。

中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

・活動団体を通じて、各ステークホルダーからの信頼を得ることを目指し、活動団体と一体となった取り組みを実現したい。

・今回の活動団体以外の事業者や団体からも頼られる存在となり、本事業を通じて獲得した中間支援機能を地域のために活用していきたい。

・特に、道の駅売店、産直市、商品開発、旅行商品造成、教育旅行受入、アクティビティ、観光地域づくり法人（DMO）としてのプロモーションやセールス等々、地域商社として有している様々な機能との連動による相乗効果が発揮できるようにしていきたい。

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

・観光地域づくり法人（DMO）として、目指すべき観光地域づくりの実現のために、地域循環共生圏の概念を取り入れ、町内に地域循環共生圏づくりを広げる。

・また、地域の事業主体同士に加え、住民や各種コミュニティ、行政、ならびに他地域や、国が進める政策等の社会の潮流とも地域をつなぐようなハブとなり、より多くの地域が持続可能になることに貢献していく。

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】	◆地方事務局キックオフMtg.	◆キックオフMtg. 連携協定書締結	◆森ラボ	◆活動レポート ◆ｽﾃｰｸﾎﾙﾀﾞｰMtg（安芸太田町ﾍﾙｽﾂｰﾘｽﾞﾑ推進協議会総会）				◆中間共有会 ◆活動レポート	◆森ラボ		◆活動レポート	◆成果共有会
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】	ひろしま流域フォーラム開催準備 ウェルネスプログラム体験モニター（今年度中に10名予定）						◆ひろしま流域フォーラム			ウェルネスプログラム最終調整～販売準備		
中間支援主体の支援・取組計画	◆地方事務局キックオフMtg. ◆実施計画書・予算書	◆キックオフMtg. 連携協定書締結 地方事務局月次Mtg.	◆森ラボ ◆精算報告書	◆ｽﾃｰｸﾎﾙﾀﾞｰMtg（安芸太田町ﾍﾙｽﾂｰﾘｽﾞﾑ推進協議会総会） ◆支援レポート ◆精算報告書			◆ひろしま流域フォーラム ◆精算報告書	◆中間共有会 ◆支援レポート ◆精算報告書	◆森ラボ		◆支援レポート ◆精算報告書	◆成果共有会 ◆精算報告書

備考（補足説明など必要な場合は記載）

◆森ラボ：令和6年度事業により創出した地域プラットフォーム

◆安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会：町内外のステークホルダーが数多く参画し、森林セラピーをはじめとした町内のヘルスツーリズムを推進する協議会（一般社団法人地域商社あきおおたが事務局を担っている）